

教材の言語活動（漢文編）

国語科 島山 俊

1. はじめに

2020年度の『お茶の水女子大学附属高校 研究紀要』第66号では、「古文入門期における教材の言語活動」として1学年で学習した古文の10教材について読解後の言語活動を例示した。そこでは「ねらい」として「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」の3つの思考力の養成を挙げた。いっぽうこれらの活動が教材の読解後に行われる活動であるために、それを新しい評価の観点から捉えることもできると考えられる。2022年度から高校で実施される学習指導要領では評価の観点として次の3つを挙げている。

「知識・技能」

「思考力・表現力・判断力」

「主体的に学習に取り組む態度」

今回は2020年度、2021年度に授業を行った2学年漢文における単元後の言語活動について、昨年度とは視点を変えて観点別評価に資する言語活動として論じることにする。

2. 取り組みの概要とねらい

2.1. 取り組みの概要

本校では2年次の「古典B」の教科書として『新 精選 古典B』明治書院（平成29年2月28日検定済）を使用しており、漢文の授業ではその漢文編（古文編、漢文編別冊）を使用している。ただし、本校は古文、漢文では独自の教材配置を長年にわたり試行しており、そのこととも関連してプリントによる教材補充もかなりの程度なされている。単位数は「古典B」で3単位であるが、古文2単位、漢文1単位に案分している。年度により若干異なるが、2021年度の学習教材を示すと次のようになる。

4月 塞翁馬 (8) 孟母断機 (12)

5月 **晏子之御** **先従隗始**

6月 **王昭君** **雑説**

7月 漢詩〔飲酒 (73) 子夜呉歌 (74) 長恨歌 (78)〕

9月 鴻門之会 (30)

10月 鴻門之会 (30) 四面楚歌 (38)

11月 **人不忍心** 人之性悪 (114) 侵官之害 (122)

1, 2月 澠池之会 (102) 刎頸之友 (105)

* () 内は教科書ページ数, 太字はプリント教材

* 学年ごとに学習テーマを設定しており, 2年次は「女性と人生」であるため「晏子の御」「王昭君」などを補っている。

2.2. 取り組みのねらい

教材は訓点付きの文を書き下し文にし、さらに現代語訳するという通常の授業形態で読解する。それらが終わった後に「まとめ」として作業プリントを配布する。もともとのねらいは先に挙げた3つの思考力を養成するためである。各教材後の「まとめシート」については資料1～11をご覧いただきたい。ほとんどの教材において「縮約」という形で教材の内容をまとめさせている。これは一種の振り返りの働きをなすものと考えている。そして基本事項等の復習もできるように構成し、さらに課題を付している。課題は多くが「批判的思考力」に関するもので読みを客観的に捉え直すものとしている。また、個人の意見に対してペアを組んで反論する課題もあり、その場合は「協働的思考力」を養成するものとなっている。このような思考力養成をねらいとしつつ「縮約」では新学習指導要領での評価の観点「思考力・表現力・判断力」を、「課題」では「思考力・表現力・判断力」「主体的に学習に取り組む態度」の二観点をそのシートから読み取ることも可能であると考え。積極的に教材を解釈し、自身に引き付けて考えているかどうかをシートから読み取り評価することになる。

3. 「言語活動」の実際

3.1. 「塞翁が馬」

この教材では「福」と「禍」とが目まぐるしく入れ替わる。ここでは「福」と「禍」とが入れ替わった経験を書き記すことを課題とした。自分の経験と照らし合わせることで教材を深く理解することになる。生徒が書いたものをまとめた「資料12」を見ていただくとわかるが単純なものが多い。近年の生徒は物事の捉え方が浅いように感じる。この課題も「福」と「禍」とが数回入れ替わったような経験を考えさせるといいと提出されたシートを見て感じた。それでもあまり表面的ではないものは主体的に参加しようとしていると判断できる。

3.2. 「孟母断機」

孟母が孟子を戒めた、「織物を断つ」というやり方について肯定か、否定かを考えさせ、さらにペアワークとして相手の意見に反論する。必ず反論することで自分の意見を相対化することができる。相手の意見を正しく受け止め、的確に反論しているものは相手の意見をしっかり読み込んでいるという意味で主体的に参加していると判断できる。

3.3. 「晏子之御」

晏子は自分の御者を大夫に取り立てたが、その理由について考えさせた。御者が大夫になるに当たってはその妻のアドバイスが重要な働きをしている。御者自身を認めただのか、話に聞いた妻の存在も評価したのかで考え方が分かれる。時代錯誤の感もあるが、妻にも注目させ、女性にスポットライトを当てたい。誰のどのような点がどういうふうには評価されたかを筋道立てて書いているものは主体的に参加していると判断できる。

3.4. 「先從隗始」

いわゆる「抑揚」の句法に習熟するように例文を提示し、後半部分を創作させた。特に漢文で書くことを指定はしなかったが、漢文で書いた生徒もいた。古文作文だけではなく、漢文作文も簡単なものなら高校生でも可能だと感じた。また、新型コロナウイルス感染症の時代を反映するようなものも散見され、自分の生きる時代に引き付けて漢文を解釈することを学べる点で主体性を判断できる。

3.5. 「王昭君」

王昭君が後宮を追放されたことは何が原因であったのか、考えさせた。見方を変えることで登場する人たち誰もが問題のある行為を行っているのが理解できる。他の生徒の意見も読むことで多様な視点に気付かせたい。「誰の」だけではなく、「どのような」の部分も多様に考えられる。ユニークな視点で理路整然と書いてあるものは主体的に取り組んでいると判断できる。

3.6. 「鴻門之会」

項王になったつもりでどのように行動するかを考えさせた。項王の行動にバリエーションが考えにくかったと感じたので、その点で工夫が必要かもしれない。さらにペアワークとして項王の行動を思いとどまらせる説得をさせた。内容的にあまり自分に引き付けることはできなかったかもしれないが、意見をきちんと戦わせることができるようにしたいと考えた。意見を戦わせようとしているかどうかで主体性を判断できる。

3.7. 「四面楚歌」

この故事に基づいて作られた詩(教科書所載の「題烏江亭」)に込められた詩の作者の思いについて考えさせた。説明抜きで課題を行ったので、詩の背景などを読み取ったうえで課題を行った生徒と表面的に字面だけから判断した生徒がいると分かった。このようなことも主体的取り組みの判断材料となろう。項王の人物像を改めて考えることにもつながるので、「鴻門之会」と合わせて考えるような課題設定もできよう。

3.8. 「人不忍心・人之性悪」

自分が性善説と考えるか、性悪説と考えるか理由を挙げさせ、ペアワークでそれに反論させた。この課題は前年度も今年度も一年間で一番盛り上がった。やはり人は「性善」なのか、「性悪」なのかは判断のつきにくい問題なのだろう。また、自分の経験から「性善」か「性悪」かを考えるきっかけとなるようなことも見つかりやすいのだと思われる。教材で論じられている例も非常に分かりやすいため考え深めやすいのだろう。多くの生徒が主体的に取り組んでいるように見えた。

3.9. 「侵官之害」

決まりを厳密に守ることの是非を考えさせた。これも比較的考えやすい例と思われた。自分の意見を書いた後、それをペアに見せて自由に意見を交換する時間を取ったが、活発な意見交換がなされていた。どちらかというところでは手伝うという指向が強い感じではあったが、あるクラスでは生徒会に属する生徒がそれだといつまで

も同じ人が仕事をするということになると訴えたことで甲論乙駁することになった。これはそれぞれの国や社会とも関わる問題であるという意見もあった。主体性という点では前項以上に考え深めていた。

3. 10. 「澗池之会」

人物像を読み取らせ、共感する人物について考えさせた。登場人物二人の色分けがはっきりしているのも、好みが分かれ、共感する人物もいろいろであった。これも終わった生徒たちからペアで見せ合って意見交換させたが、活発に話していた。このような課題は時間が許せば、それぞれの人物について支持を表明する形でクラス全体に話の輪を広げるとより主体性があぶりだされるかもしれない。

3. 11. 「勿頸之交」

改めて人物像を考えさせた。この教材は 2021 年度固有のもので、かつこの課題は定期考査直前となったため、自由提出にして、まとめも出さなかった。

4. おわりに

本校では様々な教科・科目でペアワーク、グループワークを取り入れている。しかし、現今の状況下では制約も多い。それでもこれからの時代を考えるとそのような学習活動が授業の中心を成すような授業の組み立てを考えることがますます必要となろう。多くの学校でそのようなワークが試みられているに違いない。ここに紹介したのはひとつの例に過ぎない。これを参考にご自身の学校に合った改良を加えていただき、よろしければそれをフィードバックしていただければ、よりよい活動となっていくことであろう。使えそうなワークシートはぜひ使っていただきたい。私自身もいろいろな想定のもとにワークを作ってはいても、想定とは違ったり、思ったような反応がなかったりということを繰り返している。その意味ではここに挙げたものも発展途上といってよい。これから可能な限り改良を加えていきたい。昨年 of 古文についての言語活動、また、今回の公開研究会もこの路線に基づいたものである。合わせてご覧いただき、多くの方々とともによりよい学習活動を作り上げて行きたい。

2年 組 番 氏名

1 内容を二五〇字以内でまとめなさい。

「塞翁馬」縮約
 国境のとりで近くに住む老人の馬が胡に逃げたのに老人はこれが福に変わると
 いう。逃げた馬が胡の駿馬を連れて帰ると老人はこれが禍になるという。さら
 に息子が落馬して骨折するとそれが福に変わるといふ。胡と戦いが起こるが息
 子は足が不自由で参加せず親子とも無事であった。このように禍福は計ること
 ができないのである。

句法

限定 p96～

「ただののみ」「ただ」「のみ」に用いる漢字を見ておく

「独り」（のみ）は人だけに用いるわけではない。

① 恒産無くして恒心有る者は、惟だ士のみ能くすることを為す。

② 安定した収入がなくても安定した気持ちでいることは、立派な人物だ
 けができることだ。

② 学問の道は他無し。其の放心を求むるのみ。

① 無^{クシテ}「恒産」而有^ル「恒心」者、惟^タ士^ノ「為^ス」能^クス^ルコトヲ。
 ② 「訳」学問の道はほかでもない。無くした（仁義の）心を探し求めることだ
 けだ。

語彙（読みと意味とを確認する）

故

何遽

居数月

将ゐる

2 「禍福は糾える縄の如し」に当てはまる経験を書きなさい。

② 学問之道^ハ無^シレ他。求^ムル^ル其^ノ放心^ヲ而已矣。① 次^ノ文を書き下し文にしなさい。
 ① 無^{クシテ}「恒産」而有^ル「恒心」者、惟^タ士^ノ「為^ス」能^クス^ルコトヲ。

資料 2

「孟母断機」

2年 組 番 氏名

1 内容を二五〇字以内でまとめなさい。

2 次の文の傍線部を送り仮名を補ったうえで全体を書き下し文にしなさい。
① 世皆争^{ヒテ}為^{スレ}之^ヲ、豈不^レ悲^{シマ}哉。

② 君子去^{リテ}仁^ヲ、悪^キ乎^カ成^{サン}名^ヲ。

2 孟母の考え方を肯定するか、否定するか、理由を述べなさい。(肯定 否定)

「孟母断機」

縮約

孟子が若いとき、学問の合間に家に帰ると、母は学問の進み具合を問うた。「もとのままです。」と答えると、母は織っていた布を切った。孟子が理由を尋ねると、学問を途中でやめるのは布を途中で切ると同じ愚かなことだと伝え、学問を継続することの重要性を教えた。孟子は一日中学問に励み、高名な学者となった。

句法

反語 pag.~

「疑問詞くや／か」「疑問詞「や／か」に用いる漢字を見ておく

特に注意する字：安・豈・如・幾何

疑問―「はい」「いいえ」で答えられるもの。

反語―疑問の形を借り、自分の意見を強調するもの。

詠嘆―疑問の形を借り、心に感じた思いを述べるもの。

① 世皆争ひて之を為す、豈に悲しまざらんや。

(訳) 世の中は争ってこんなことをする、なんと悲しいことではないか。

② 君子仁を去りて、悪くにか名を成さん。

(訳) 君子が仁から離れたら、どこで名を成すというのか、いや、成さない。

語彙(読みと意味とを確認する)

方に

夫れ

則ち

少し

少し

「晏子の御」

2年 組 番 氏名

1 内容を二一〇字以内でまとめなさい。

「晏子の御」

縮約

春秋時代、斉の宰相である晏子の御者の妻が出かけるのを見ていた。晏子は小柄だが、控えめだが、御者は大柄で得意になっていた。そのため、妻は御者の元を去ると告げた。その後、御者は控えめに勤めたため、晏子に認められた。

句法

願望 ㄋㄨ 用いる字と読み方をチェックしておく。

願望を表す助辞を使うー願・請・欲・冀・庶幾など

「請」以外は目上の人用いる。「冀」より「庶幾」のほうが強く望む気持ち。

「冀」||「希」「庶」「幾」

「冀」は「こひねがフ」と動詞として読んでもよい。

2 次の文を現代語訳しなさい。

① 請フ以テレ劍ヲ舞ハシム。

① どうか、剣を使って舞わせていただきたい。

② 王様、どうかこれ（やり方）を改めてください。

② 王庶幾ハクハクハ改メヨレ之ヲ。

語彙（読みと意味とを確認する）

甚だ

2 晏子はどのようにして御者を大夫に推薦したのか、理由を考えなさい。

今者

足る

対ふ

資料 4

「先従隗始」

2年 組 番 氏名

1 内容を一一〇字以内でまとめなさい。

2 次の文を書き下し文にしなさい。

① 庸夫且知其不可。況賢人乎。 庸夫―平凡な人

② 庸人尚羞之。況於将相乎。 庸人―平凡な人 将相―將軍と宰相

2 「臣死スラ且ツ不レ避ケ。況ヤ〜乎。」または「臣死スラ且ツ不レ避ケ。安クンゾ〜乎。」の「〜」部分を創作しなさい。現代語でもよい。

「先従隗始」

縮約

戦国時代、燕の昭王が賢人を招く方策を郭隗に相談した。隗は昔、千里の馬を求めた王に対し、召使いが死馬の骨を買ってきて、これで馬はすぐ集まると言い、その通りになったと伝えた。王はすぐに隗を厚遇し、賢者を集めることができた。

句法

抑揚 ㇿ〇〇 軽いものを提示し(抑)、重要なことを強調する(揚)。

〈型〉 Aスラ且ツ(尚ホ) B。〔而ルヲ〕況ヤCフ乎(哉)。

〈訳〉 AでさえBである。「そして」ましてCはなおさらである。

*前半が単に「AはB」の形であることもある。

*後半が「況や」ではなく、「安くんぞ」を用いる反語となることもある。

① 庸夫すら且つ其の不可なるを知る。況や賢人をや。

② 庸人すら尚ほ之を羞づ。況や将相に於いてをや。

③ 平凡な人でさえもそれができないことを知っている。まして賢い人はなおさら分かる。

④ 平凡な人でさえもそれを羞じとする。まして將軍や宰相はなおさら羞じる。

語彙 (読みと意味とを確認する)

期年

師事

王昭君

2年 組 番 氏名

1 内容を百二十字以内でまとめなさい。

2 一番問題があるのは誰のどのような行為か、理由とともに述べなさい。

Empty rectangular box for student response.

王昭君

○縮約

元帝の後宮にはたくさんの女性がおおり、肖像画により寵愛する人を決めていた。匈奴に攻められ、肖像画により嫁がせる者を王昭君に決めた。賄賂を渡さなかったため、うまく描かれていなかったからである。しかし、王昭君は後宮一の容貌、挙措の持主だった。

1 句法

部分否定 不得常見 ↑↓常不得見

「不復更人」は？

訳し分けてみよう。

勇者 不必有仁。

智者 必不敗矣。

使役

限定 「独りゝのみ」

語彙 (読みと意味とを確認する)

亦

遂に

於是

故に

乃ち

2年 組 番 氏名

1 「鴻門之会」の目的を四十字以内でまとめなさい。

2 あなたが項王（項羽）だったら、どのように行動しますか。

右のように行動しないように説得しなさい。

鴻門之会

○縮約

咸陽を占拠した劉邦を討とうとする項羽の怒りを収めるために劉邦が弁明を行う目的。

1 句法

特殊な仮定

不_レ然_レ不_レ者（読み…しからずんば）（意味…もしそうでなければ）

*書き下しでは「然らずんば」「不者んば」

*「然らざれば」とは異なる。ただし、例外もある。

抑揚（下文に反語を用いる場合） p111

臣死且不避。卮酒安足辞。

語彙（読みと意味とを確認する）

且日

見ゆ

亦

遂に

夫

故に

2年 組 番 氏名

1 「四面楚歌」の内容に沿って、空欄に適語を入れなさい。

項王は自分たちを包囲した1の兵士が周り中で2を歌っていることに驚いた。そして、覚悟を決め、最後の3を開き、自作の4を披露した。

その詩では項王は5に利がなかったことを嘆くのであった。陣中は皆、悲しみに暮れた。

項王は東の方で、6を渡ろうとし、7は項王だけを逃がそうとした。しかし、項王は8に滅ぼされるので逃げはしないと、9の若者を失ったことを恥じた。亭長に馬を譲り、最後の戦いに挑んだ。そこで昔からの10の顔を見つけ、11して首を与えた。

2 教科書やページの「題烏江亭」の詩は誰にどのようなことを訴えようとして書かれたものだと思いますか。理由を含め説明しなさい。

1 漢軍 2 楚歌 3 酒宴 4 漢詩 5 時 6 烏江 7 亭長 8 天 9 江東
10 友人 11 自刎

1 句法

詠嘆（反語を用いる）いわゆる感嘆文

何楚人之多也。

反語

独不愧於心乎。

2 語彙（読みと意味とを確認する）

已に（副詞）他に動詞、助詞）

奈何（＝如何、若何 目的語がある場合）

左右

雖も

且つ

縦ひくとも（逆接の仮定条件）

嘗て

1 「性善説」「性悪説」のどちらか自分の支持する方を適切な具体例によって説明しなさい。

Blank box for writing the answer to question 1.

2 1の考え方について反論しなさい。反論者（ ）

Blank box for writing the answer to question 2.

侵官の害

2年 組 番 氏名

1 作者の主張に肯定か、否定か、立場を明示して自分の考えを述べなさい。

肯定 否定

[Empty box for writing the answer]

侵官の害

○句法

二重否定 「非不」 「しないわけではない」

↓「みなくする」

比較 「く於……」

語彙 (読みと意味とを確認する)

昔者

寝ぬ

故に

説ぶ

左右

対ふ

以為

則ち

○句法

二重否定 「非不」 「しないわけではない」

↓「みなくする」

現代語訳しよう。 於物無不陥也

澠池之会

2年 組 番 氏名

1 四十字以内でまとめなさい。

2 p103-104における廉頗はどのような人物ですか、まとめなさい。

p103-104における藺相如はどのような人物ですか、まとめなさい。

どちらの人物に共感しますか。理由とともに書きなさい。

澠池之会

○秦王と趙王とが澠池で会合した。秦王の圧力を藺相如の知恵で跳ね返すことができた。

1 句法

- ・使役 使(令) 「Aをして(Bを)Cしむ」 「三十一」「三十一レ」
- ・否定 「毋・勿」 なシ(否定) なカレ(禁止)
- 「不敢」 訳に注意 「無理にししようとするな」
- ・打消の仮定条件 「不〜」 「〜ズンバ」
- ・送り仮名における受身・使役 「拜セラル」 「書セシメテ」

語彙(読みと意味とを確認する)
為好

且つ

遂に/終に

畢ワル/竟フ 畢竟「つまり、結局」

寡人

窃かに

左右

資料 12

「塞翁馬」

「禍福は糾^{あざな}える繩^{こと}の如し」(＝「人間万事塞翁が馬」)に当てはまる経験

- ・あまりデザインが好きでないシャーペンをももらったが、それはとても書きやすくて結局愛用している。
- ・原稿なしで発表をうまくいったが、原稿を提出しなくてはならなかった。
- ・受験直前にインフルにかかったおかげで勉強できた。
- ・ケーキ屋に行ってお目当てのケーキが売り切れだったので落ち込んだが、仕方なく違うケーキを買って食べてみたら自分の好みのケーキだということに気づけた。
- ・宿題を早めに行い終わらせたが、後から宿題についての補足説明があり、やり直さなければならなくなったこと。
- ・りんごを買ったら、りんごがくさっていて、お店の人に言った所、サービスで他のフルーツももらった。

資料 13

「孟母断機」 孟母の考え方を肯定するか、否定するか。

肯定→否定

A：学問の大切さをわかりやすいように自分自身の仕事にたとえている。機をおることも学を修めることも、途中で止めてしまったら、今までのすべてがムダになり、またおこたるといい暮らしをすることはできないという点で共通するものがある。

B：勉強だけにこだわらなくても思慮深いなどの人格者だったり、何か他人よりも秀でているものがあれば、名を立て、平穏な暮らしを送ることができると思う。

A：確かに勉強をやめることは簡単だが、孟母の言う通り学問は生活するためには必要であり、また、一度やめると最初からやり直すのは大変。

B：学問ばかりしているのが最善とは限らないのでは？一度学問から離れてみることも生きていくうえで大切だと思う。

A：勉強だけが大切だとは言えないが、現実、勉強できる方が物事をとらえやすかったり、先導したり、自分のやりたいように人生を歩みやすいから。

B：学問は自分から進んで学ぶことに意味があり、孟母のように厳しく勉強を強制するようなことは望ましくない。学問が楽しくないと思ってしまうと、自分のために楽しく生きるとは難しくなるのである。

否定→肯定

A：孟母の考え方は、いくら時代が違おうとは言え、様々な理由があって学校に行けず、勉強をやめてしまった人たちを否定しているように感じるので好ましくない。

B：学校と学問は本来別離すべきもの。学校に行かなくてもこの時代、認定試験や資格取得などで学問を修めることは出来るので、学問を断念する理由にはならない。

A：孟母は、生きていくためには学問が全てだと主張しているが、学問以外のことでも人一倍努力すればそれを職として生活していくことはできると思う。

B：たしかに学問以外を極めて生活していくこともできるかもしれないけど、まずは学問が全ての基本となることだと思うし、学問も途中でやめてしまうような人が学問以外のことで職にできるほど努力できるとは思えない。

A：急に布を切ったり、恐怖で人を支配するのはだめだと感じた。また人に使われていても害はさけられるから。人の下に使われている人をばかにしているのはよくない。

B：孟母は、孟子が何度か言うことをきかなくて、最終手段として織物を切った可能性がある。いきなりこわがらせてやろうとしたのではないかもしれない。また少なくとも人に使われる方が害は避けにくく、孟母は息子に少しでもリスクをさけて生きてほしかったのだろう。

資料 14

「晏子の御」

○晏子が御者を大夫に推薦した理由

- ・人に指摘された時に変に意地を張らずに、自らを改めて直すことができる人だと感じたから。→民の意見を聞ける。
- ・人間として相手に指摘されたことを素直に受け入れるのは難しく、またそれができる人が重臣になるべきだと考えたから。
- ・心を入れ替え、謙虚になったので、もっと色々な人の役に立てる人になれると思い、大臣に推薦したと思った。

- ・妻に諭されて、改心した御者なら大夫になってもその心持ちを忘れずに、強い志をもって働くことができると思ったから。
- ・今まで御者の地位に満足し、向上心がなかったが、御者は今回の出来事を通じて向上心を得た。向上心をもつものは仕事を積極的にするだろうと晏子は思ったため。
- ・自分の権力におぼれる可能性が低いと考えたから。
- ・一度妻に態度について指摘され、かつ離婚まで申し込まれた御者は、もう二度と態度が悪くなることはないと思ったから。

- ・妻によって一度自分の行いを諫められていて、そのことを包み隠さず全て晏子に伝えたから。

- ・自分の現状に満足することなく、更なる地位を求めようと努力するように声をかけてくれる妻がいるから。

資料 15

「先従隗始」

「臣死且不避。」は明説漢文 p111 に抑揚形の例文としてあがっている。現代語訳は「私は死ささえ恐れない。」である。後半はみなさんにとって「死」よりも重いものを考えることになる。ちなみに「臣」は一人称のへりくだった言い方である。明説漢文 p240 参照。この「付録5」も時々眺めると役に立つ。

まして、罰せられることはなおさら避けられません。

仕事をくびになること。

戦いで先陣を切ること。

どうして敵国に乗り込むことを怖いと思うのでしょうか。いや、思いません。

臣死且不避。試合安足辞乎。

臣死且不避。況赤点乎。

テストで0点を取ること。

安挙手乎。

況数B乎。

まして、あの先生に提出物を遅れて出すなどどうしてためらうだろうか、いやためらわない。

まして、教卓の前で寝ることなどどうして恐れようか、いや、恐れない。

況受験乎。

まして夜様子をみにいくなどどうして辞めようか。

況や注射針をや。

子供すら且つ今日外出悪しなるを知る。況や飲み歩く大人をや。

まして、一人で生きていくことも恐れない。

ましてや手を失うことなどどうして恐れようか。いや恐れない。

ジェットコースターを恐れること。

好きな人に告白するなんて怖くない。

虫。

臣死且不避。バンジージャンプ安足辞。

わさび大量寿司。

まして、なめくじなどどうして恐れようか。いや恐れない。

資料 16

王昭君 まとめ

○一番問題があるのは誰のどのような行為か。

帝

- ・たくさんの女性を後宮としていたこと。多すぎて、絵で美しかった人を選ぶことになってしまっていたから、この事件は起きた。少なくしていれば、選抜は行われず、画工たちも殺されずにすんだから。
- ・女性を顔だけで判断すること。そもそも顔の絵で判断しようとしたのがきっかけで賄賂が始まり、実際に会ってもいないのに選抜するのはおかしい。見た目では身だしなみや行儀の良さは判断できない。
- ・絵師を死刑にしたこと。絵師に賄賂を渡して絵を描かせていた状況を招いたのは帝で、想定できることなのに、絵師だけが責任をとるのはおかしい。
- ・絵師を死刑にしたこと。絵が本物の女性と比較し、美人に描かれていることに今まで疑問を持たなかったのに、自分が外交にどうでもよい女性を使おうとした時にきつき、腹いせのような感じで死刑にしているから。
- ・画家をすべて死刑にしたこと。確かに賄賂を受け取り、絵に差をつけたことは良くないが、死刑にするよりも賄賂を止める事の方が大切だと思いました。
- ・王昭君を匈奴に差し出した行為。元帝は後宮と画家とのやりとり気づかなかっただけではなく、交渉として、その時点で最も醜いと思う人を差し出すのは、人としてどうなのかと思うためである。まして、その美貌に気づくと自分のものとしたいとするのは、政治よりも女性に溺れて政治をかえりみていない証拠である。
- ・他国との平和の礎となる人間を絵だけみてきめようとし、さらに一番みにくい人をえらぼうとした点。

画工

- ・賄賂をもらって、それによって美しく描いたり美しく描かなくしたこと。もちろん、賄賂を送った女たちも悪いと思うが、賄賂を贈られても事実を描くのが仕事の絵描きは、たとえそれが賄賂が無くなり稼げなくなったとしても仕事を全うすべき。
- ・皇帝の寵愛をえられれば権力とかも手に入るし、実家とかからも寵愛をうけるようにいわれてる。女性を利用してもうけている。
- ・賄賂を受け取る行為。元帝の、人数が多いから肖像画を書かせて吟味するという判断は理にかなっているし、もちろん賄賂を渡した女たちも責任はある。しかし王に選ばれなければいけない弱い立場の彼女たちにとって生きるための選択であったと考える。なのでただ私腹を肥やすだけの絵師の行為が一番の問題である。

後宮

- ・絵師に賄賂を送ったこと。自分の力で勝負せずに、お金で済ませようとしているから。
- ・賄賂を絵師に贈り美しく描かせた行為。絵師に肖像を描かせ、女性を公平に選ぼうとしている帝の気持ちをつみにじっているから。
- ・画家に偽りの肖像画を描かせた行為。必ず真の姿がばれることになるので、無駄な行為だったと思う。偽造さえしなければ、元帝はスムーズに女性を選べたと思う。
- ・賄賂で描かせた行為。すべての事の発端であり、また、賄賂を渡している時点で行うべきことだと分かっているはずなのにに行ったから。また、これは帝をだました詐欺と同じだから。
- ・自らをよく見せようとか画家の欲を利用して上手に描かせた挙句、何も罰せられるなどの罪に負われない点で、最も問題がある。

匈奴

- ・後宮の女性を求めたこと。そもそも侵入してくること自体信じられないし、その上既に宮に入っている女性を求めるだなんて非道な行為。

資料 17

「鴻門之会」 意見

・私が項羽だったら沛公を殺そうとする。なぜなら先に咸陽を破られたのでいくら今は自分に尽くしていても後には必ず王の座を狙うだろうし、そうなれば咸陽を破ったので周りの人もそれを支持してしまう可能性があるから。

→そう思っているけど、沛公は弁明しているから今はそれを信じているように見せて、すきができたときに殺せばいい。

・部下に、自分は別に沛公を殺す必要はないと思っていることを説明し、怒りを静めてもらう。

→沛公は高い軍事力を持っており、今私たちに牙をむいておらずとも、いずれ私たちの脅威となることは明らかです。今は沛公を殺す最適の機会でありこれを逃す手は無いかと思われれます。

・自分の地位をゆるがす相手なので、部下に殺させる。

→そんなことをすると樊噲がいうように秦と同じことになる。なぜなら、手柄をたてた者を自分の地位をゆるがす可能性があるという理由だけで処刑する君主をだれも信じないからだ。君主なら大きな器で！

・事前に家来へ、話し合いの場で沛公を早々に殺すよう命じておいて、沛公側の言い分は聞こうとしなかったと思う。

→何でも武力で解決しようとしては、相手の真意を知らずに無駄死にさせてしまうことになるかもしれない。備えはあってもいいかもしれないが、相手の話も聞かずに殺してしまうような人物に人々は従わないのではないだろうか。

・この場では沛公を殺さずに生かしておく。いい感じに利用しよう。

→今この場で殺しておかないと、あとで大きな脅威となるぞ。さっさと殺すんだ！！

・沛公を殺さず、その功績を認めて、褒章を与える。

→いまは従順に見えても、沛公はきっといつか項王を滅ぼすから、いま殺さないと危険。

・一人からしか話を聞いておらず、情報源が少ないので、他の人にも話を聞いてから判断する。

「題島江亭」の詩について

- * 「題」は脚注がある。p25をたどると「書きつける」とある。そこに書きつけたのはその場所へのこだわりで、必ずしも亭長へのメッセージとは限らない。
- ・まず、天が自分を滅ぼそうとしていると負けを覚悟している項羽に対し、戦いの勝敗は兵法に詳しい戦略家さえも前もって予期できないと述べている。次に、江東の若者八千人を死なせたのに追いつめられていることを恥じて、父兄に会わせる顔がないという項羽に対し、負けたとしても恥辱にたえて再起をはかることこそが勇らしきだと述べている。最後に、一人で自刃した項羽に対し、江東の若者には才能の優れた人物が多かったのだから、彼らとともに力を蓄え、再び攻めたならば、天下の情勢がどうなっていたかは分からないと述べている。以上から、この詩は、**項羽に、一度負けてもあきらめず、恥辱にたえながらも力を蓄え、勝つまで戦い続ける**というようなことを訴えていると思う。
 - ・**將軍に恥を忍んででも、まきかえせる可能性がある行動をすべきだ**と訴えていると思う。詩の中で江東には優れた人が多いので、江東へ行き、再び力を蓄えれば、結果はわからなかったという記述があるので、杜牧は項王ははずかしいことだとしても江東にわたるべきだったと考えていると思った。
 - ・**後世の人に、戦いの勝敗は予想できないものであり、一度失敗した者が再びやり直すこともできる**ということを訴えようとして書かれたと思う。ここで才能のあつた江東の子弟が闘いの中に不運にも亡くなつてしまったことをとりあげ、もし彼らが生きていたらその死を恥とするような項羽に率いられて、戦いの結果が逆になつたかもしれないと伝えている。
 - ・戦いの勝敗はどうなるか戦略家にも分からない。なぜなら、才能に優れた人が多く、一度失敗した者がやり直すこともあるからであるという内容のため、戦いの勝敗は誰にも分からないので、最後まで全力をつくすことが大切であることを訴えようとして書かれた。
 - ・項王に、あつたとき自刎しなければ捲土重来もあつたかもしれないと訴えようとしている。
 - ・江東の人々に対し、項王は死んでしまつたが、それで終わるわけではないと奮起させようとしている。詩の中で戦争では何が起ころかわからない。しかし、戦で、他の人に殺される恥をかかないために自ら首を切つた項王は潔く、真の漢であつた。そして、江東の人々には優れた人物が多い。項王が死んでも最後にはどうなるかわからないからと江東の人々のことを誉め、江東出身の項王も誉めているから。
 - ・楚の若者に、項羽の素嗜らしさを伝え、漢への復讐を促す詩。八千人の若者を失つたことを恥じ入る項王は勇兒だとたたえている。また、楚には優秀な人物が多いから、再びやり直すこともできると鼓舞している。

資料 19

性善説（孟子）vs 性悪説（荀子）

○性善説→性悪説

・現代文でやった時に、「良心」というものは教育で得るものではなく、自然と身についているものだと考えた。それと同じで、生まれた時から全員妬みと憎しみがあることはないと思う。例えば、文章中みたいに、小さい子が目の前で転んだらかわいそうだと思うこととか。→良心は教育で得るものではないが、憎しみとかも外から得るものではなく身についているものであると思う。人はみんな楽でありたいとかいう気持ちがあるし、基本的には他人より自分を優先するので、善というよりは悪だと思う。

・私は、損得なしに助け合えると思うので、性善説を支持する。貧しいシンデレラやマッチ売りの少女を読んでかわいそうで、見過ごせないような気持ちになるからだ。

→貧しい人が出てきたのは争奪が生じたからで、それは人の性悪のためである。損得なしに助け合えたら貧しい人はなくなるが、実際はそうではない。

・たとえば朝、急いでいるときに、駅で道をきかれたら、「無視するのはかわいそう」という思いが働くし、店内で、万引きをしようとする人がいたら、「とめなきゃ」という気持ちになる。悪と思われる行動をとる前、あるいは目撃したときに一瞬考えさせられるのは人にはもともと良心が備わっているから、そう考える。

→一瞬考えさせられることはあるかもしれないが、必ずしも良いとされる行動をとるとは限らない。それこそ、自分が遅刻しそうだったら「面倒くさいな。」と思って、自分の利益を優先して無視することも、よくあることだと思う。万引きを目撃しても、「逆ギレされたらどうしよう。」と思って見て見ぬふりをすることもあると思う。

・人が困っているところを見たら誰でも助けようとしたり、助けられなくても心配する気持ちは持つと思うから性善説。もし人の本性が悪であるならば教育で善になることはないと思うから。

→人が困っていて助けられるのは自分に余裕がある時だけだと思う。自分と誰かが同じくらい困難な状況にある時にこそ本性が出て、だいたい場合は他人より自分を優先するのではないか。

・人はお金や利益がからむと心が汚れて悪になる。それ以外では良い人。例えば教室で物をおとしたら拾ってあげるし、迷子の子がいたらかわいそうだと同情する。

→本当にそれらの善行に利益が絡んでいないと断言出来るか？世の中には人望やツテといった物もあるぞ？

・人が、人の善悪について判断し得ることがそれ自体根拠になると思う。人が自身の善悪について判断できるためには、それを定めるものさしが必要。すなわち、そのものさしをもつ、ということは、自分の中で善なるものは何かをわかまえていることであり、行動するときに善である方を選ぼうと悩める時点で性善ではないか。

→自分の中の善が世間での善とは限らない。自分の中のものさしが悪の範囲しかない人もいると思う。

○性悪説→性善説

・早い電車に乗りたくないという自分の欲望を優先するために、駆け込み乗車をしたり、満員電車に強引に乗ろうとする。

→そういうことをする人も、内心は悪いことを自覚して反省するはずなので、根は善人だと思う。

・人の理性、良心というものは後天的に獲得するものであって、生まれながらの本性は皆悪である。例えば、まだ道徳を知らぬ赤ちゃんは、人目をはばからず泣いたり、友だちからおもちやを奪って争ったりする。また、人の祖先である動物も、欲求のままに争ったりする。また、人の祖先である動物も、欲求のままに争ったり、気に入らない仲間をいじめたりする。よって、人の本性は悪である。

→赤ちゃんが人目をはばからず泣くのは良心を生理的欲求が上回るからである。良心があるから必ずしもその良心が他の欲望を抑え込むのではないため、人は悪の行動をするのである。もし、全ての場面で良心が上回るのであれば、人は生きていけないと思われる。ゾウのように良心が表に出てくる動物もあり、それらは社会的動物であることから、社会的動物の進化の過程で性善が組み込まれた、動物も性善を持っていると考えられる。

・教育などがなかったころ、人間は本性に従って生きていた。国や世の中のまとまりが大きくなるにつれて、教育の重要性が分かってきた。近代教育が制度化されたことで、他人と自分との関係性を意識できるようになり、譲り合いの心や礼儀が広まったと思う。

→これならば、教育をしてはじめて譲り合いや礼儀の精神が生まれたとなるが、それならば教育者は教育を受けずにどうやって仁礼の心を学んだのか。ここに矛盾がある。元々存在していないと仁礼はそもそも認知されず存在しないのでは？

・人は何らかの不正を発見したとき、大抵の人はそれを見過ごす。また、他人が何らかの不幸を負ったとき、人はそれが自分でなくて良かったと安心する。全ては我が身かわいさからくる行動なのだから、人は元来性悪であると思う。

→見過ごしたり、不幸が自分でなくて良かったと思うかもしれないけれど、それと同時にみんな少しはかわいそうだなと思ったり、助けてあげたいという気にもなるから性善もあると思う。

・おいしいパンを二人で分けるとする。正確に二つにわかれば良いが、そんなことはほとんど無理でどちらかが大きくなってどちらかが小さいだろう。小さい子どもなら、きっと大きい方を欲しがるとする。そうするとけんかが起きてしまう。二人とも大きい方は譲りたくないと思う。よって、性悪説を支持する。

→パンを二人で分けている時点で、「パンが一つだけある。自分も食べたいけれど相手も食べたいだろうな。」という、相手の心は理解していると考えられる。この善の心がまずあって、自分が大きい方を食べたいという悪の心が後から出てきているので、性善説を支持する。

・「つい魔がさした」という言葉があるように、どんな人でもささいなことや犯罪に手をそめてしまうことがある。これは人の本来の性質が悪であること、そして教育によって善に導いていることのあらわれだ。

→「魔がさした」というのは、ふと邪念が起こるということであるが、逆を返せば人というものは平常は善の心を持っているということであるし、多くの犯罪の原因は外部的要因が強い。つまり元から悪なのではなく、社会が人間に欲や妬みや憎しみの感情を持たせたのである。

資料 20

「侵官の害」 肯定？否定？

○肯定

・文中に示されている例はあまりに極端だとは思いますが、集団で活動する時には、必要な考え方だと思ふ。よかれと思ってしたことが逆効果になるというのはよくあることである。また、そうしたことがあると、集団内で「誰かがやってくれるだろう」と思う人が出てきて、仕事に抜けが出たり、一人に仕事量が偏ったりするので、自分のことをきちんとこなすのはとても大切だと思ふ。

・中国は大きな国であり、安定的な政治体制を維持するためには、多少厳しくとも自らの役割に専念させ、争いを無くすことが重要。専門分野をつくらせることで、その分野をより極めていくこととなり、全体としてもベストな状況を作り出せると思ふ。

・今回のことに関しては、完全に善意からくる行動なので、あまり重い処罰は適切でないと思ふが、もし職責を越えての行動を認めれば、自分の職務を他人任せにして全うしない者が出てくる可能性や、あるいは反乱を企てて怪しい動きをする臣下がいても、行動パターンが定められていないために気づきにくくなってしまふというデメリットがある。また、臣下間でのトラブルも発生しやすくなってしまふと考へた。

・一人の君主として、多くの臣下を持つ場合は、家来に役割を命じてその役割をおこたつても越えてもいけないと教えるのは正しいと感へた。クーデターが起きないようにするためにという理由も分かる。ただそれはその場合においてであり、現代社会には応用できないとも感へた。命じられた役割だけを果たしたら、閉鎖的で何も発展がないまふになりそうだからだ。

・典冠や典衣など、仕事が細かく分けられている場合は、自分の職務外のことをした者を罰するべきだ。職務外のことをして褒められるなら、他の者も、主に媚を売るために自分の地味な職務をおろそかにして他の人のより目立った仕事を横取りするようになって、秩序が保てない。

・自分の仕事をしないのは、言うまでもなく、良くないことだ。人は、自分に与えられた最低限の責任は果たさなくてはならない。自分の範疇にない仕事をするのは、すなわち他の誰かの仕事をうばうことにつながりかねず、人の責任をうばうという点で、人に罪を与えてしまふのだから、自分だつて、その責任をよく考へて行動すべき。

・確かに職責を超えた事をするのを良しとしないことで、部下が媚びたり、余計な事を考へなくなると思へた。しかし、職責の範囲内で良い仕事をしたら、しっかり褒める事も大切だと思へた。

・それぞれが与えられた役割のみをきちんと遂行すれば、上手くいくように役職は割り振られており、それを破るのは秩序を乱すのと同等の行為である。仕事がされていないことに気づいたのなら、その仕事をすべき人に伝えればよいだけだ。

・確かに自分の役以外のことをして、自分しかできないことをおろそかになつたらいけない。しかし思いやりを罰するのはさすがにやりすぎだと思ふ。でもこの考へ方は、医学などで体を器官ごとで機械的にみる西洋に対して、違つているのが中国だと思つていたので不思議だつた。

○否定

・自分の仕事でないとしても、気がついた者が仕事をすれば全体の効率が良くなるし、それが良心というものである。

・全員が職責の範囲内でしか仕事をしなかったら、ハプニングなどに対応できない。誰かがミスをして職責を果たせなくても周りの人が職責を越えてカバーすれば結果は変わらないので良いと思う。

・職責を果たさないのはだめだけど、職責を越えて良いことをする分には良いと思う。逆に言われた通りのことしかできない人よりも自分が気がついて行動できる人の方が有能だと思う。

・自分の職を全うしなかった典衣はともかく、典冠まで処罰するべきではない。自分の職を全うできる上で自分の職の範囲外に手を出すことは悪いことではないし、家臣の策謀につながることもない。互助の精神がある程度あるのは国家内部の仕事の遂行にとっていいことだし、その度が越えることは手を出す側にとってメリットがないので考えにくい。

・職務範囲から不足しても多くとも法によって罰されれば、だれもが君主を恐れ、自らのできる最大限のことをしようとは思わなくなるだろう。それによってむしろ法の網の行き届かない所を狙い、仲間と秘密裏に組んで利益をはかるかもしれない。以上に理由により、私は職務範囲の不足などの詳らかな点は漢ではなく、古代の禹・舜のような徳、礼を重んじた政治によって私利を防ぐべきだと考える。

・せつかく気を利かせて王に喜ばれるようなことをしたのに、そのせいで罰せられると悲しくなる。職務を全うしてないから罰するところまでは理解できるが、職務を越えても罰せず、誉めることでより良い人材となるのではないか。一部の人には王の行動は理解し難く、それ故に反乱がおこるといふ可能性もあるのではと感じた。

・臣下の役割が分かれているのは王を支える仕事をしやすくすることで、臣下は自分の仕事をすることが目的では無いのだから、係を超えてでも、気付いた人が仕事をするべきだと思う。人間だれでも忘れてたり、ミスしたりするので、互いに助けあう必要があると思うから、自分の仕事だけをすれば良いという作者の主張には反対である。

・全ての人が自分の仕事の範囲内でしか仕事をしなかったら、新たな考えや視点をとり入れる機会がなくなり、成長しづらくなると考える。同じ仕事を同じ人がやり、別の人が何か問題などに気づいても伝えられなくなってしまう。このようなやり方だと進歩は見込めないと思う。

・君主のためを思って行動した事は出すぎた真似だと処罰されるような組織では、自分の責務に、専念する内に他人に無関心になるため、連帯感が生まれにくい。何より、そんな組織は居心地が悪い。

・全ての人が自分の仕事だけを完璧に、有言実行すれば、確かに君主に忠実に従う良い臣下となるかもしれない。ただしそこにコミュニケーションは生まれにくい。他者と関わる機会が減り、孤立した個人しかいない社会では、より多い利益は得られないし、強い社会にならない。

資料 21

澠池之会 共感する人物

○廉頗

- ・怖がりな王に現実をしっかりと突きつける所がはっきりしていてよいから。
- ・国に残ってもしもの時のことも考えて行動している所がよい。相如の働きは素晴らしいが、あまりにも行動的すぎてまねできない。
- ・趙王が帰ってこなかった時のことも考えて、秦に優位に立たれないような策を趙王に提案するのは、先を読んでの行動で、とても現実的な考えであると感じたから。
- ・趙の国の未来を考え、見通している姿勢は、国を守ることが第一であるということだと思う。私も、誰が王であるかより国を維持することこそが何より大切であると考えするため。
- ・相手と競ってリスクを高めるより、現実を見て安全策をとった方が危険も少ないし将来のためになるから。
- ・相如は、結果的に対談を成功させたが、逆上した秦王に趙を攻められる可能性の高い行動をしている。一方で、廉頗は趙王が帰還しなかった場合の方が一を考えて行動しているため。
- ・王が行って帰ってくるまでの日数を計算するなど賢い。相如のしたことは成功したが、半分賭けだった。
- ・相如は失敗しても死ぬだけだが、廉頗はもし失敗したら、国事を一手に引き受けなければならない。加えて、怒った秦が攻めてきたら民の命の責任も負わなければならないためこのような重い役割を引き受けたことは尊敬できる。

○藺相如

- ・自分の知恵をうまく使った立ち回りで国及び王を助ける姿は強く美しいと感じるから。
- ・話し合いという平和的手段を取りながらも対等な関係を崩さなかったから。
- ・廉頗は戦いが起こってからしか活躍できないが、相如は戦いそのものから国を守ることもできる。
- ・ただ、力で押さえつけるより、知恵をもって翻弄した方が犠牲が少なく、合理的だから。
- ・危機を避けるのではなく、ぶつかって乗り切る（やり返す）のが良いと思うので。
- ・勇気を出して行動した方がかっこいいから。
- ・あの弁舌は、日頃からの趙王への忠誠心があったからこそできた。自分も尽くそうとするタイプ。
- ・巧みな弁舌と策略で役割を十分に果たしたから。武力を行使せず、機転をきかせて比較的平和に会合を進めたから。会合をすすめられる度胸があるから。
- ・自分が王に仕える立場だったら王を守れる人であるべきだと思う。
- ・やられたら同じ方法で返して、敵国からの侵略を防いですごいと思った。

○番外編

- ・相如の機転の良さ、度胸、対応力の高さには憧れるが、私は廉頗でも相如でもなく、秦王を恐れつつも、国益のために嫌々ながら澠池に赴く趙王に最も共感した。